

町民会議だより

News from
townsman meeting

2022.12.7
No.169

●編集・発行
下郷町青少年育成町民会議
(町教育委員会事務局内)
〒969-5345
福島県南会津郡下郷町
大字塩生字大石 1000 番地
TEL.0241-69-1168
FAX.0241-69-1167

～未来を担う青少年の育成～

青少年の主張発表及び作品コンクール

下郷町青少年の主張発表者

◆小学生の部

No	氏 名	学校名	学年	題 名
1	佐藤 絆奈	旭田小	5	話合いて大切
2	鈴木 さつき	江川小	5	一番大切な事について
3	渡部 未優	栖原小	5	みんなが健康な未来へ
4	佐藤 諒汰朗	旭田小	6	ぼくたちに、できること
5	五十嵐 美空	江川小	6	下郷町に生まれて
6	芳賀 穂高	栖原小	6	こんな未来になつたらいいな

◆中学生の部

No	氏 名	学校名	学年	題 名
1	渡部 結愛	下郷中	1	あたたかい世界へ
2	白澤 梨夢	下郷中	2	人種差別について考えよう
3	酒井 葉月希	下郷中	3	ジェンダーレスの理解を高める

第38回下郷町青少年の主張発表 青少年健全育成作品コンクール表彰式

7月8日(金) 下郷ふれあいセンターにおいて、第

38回下郷町青少年の主張発表及び青少年健全育成作品コンクール表彰式が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で昨年、一昨年と中止になったため、3年ぶりの開催となりました。町内小学校5年生以上の児童及び中学生約170名が参加しました。

主張発表では、各学校の代表者9名が、日頃感じていることや将来のことなどを発表しました。自分の考えを文章にすること、また、伝えることの難しさを感じると共に、伝える楽しさを知ることでできた良い機会となったのではないのでしょうか。そして、青少年健全育成作品コンクール(ポスター・標語の部)では、それぞれ100点以上の応募があり、どれも素晴らしい作品で審査において困難を極めました。入賞者については9頁に、最優秀作品については10頁に掲載しています。主張発表終了後、入賞者に賞状と盾が授与されました。

青少年の主張発表 優秀賞

小学生の部

話合いて大切



旭田小学校 5年
佐藤 絆奈

皆さん、ロシア軍とウクライナ軍が戦争していることを知っていますか。最近毎日ニュースになっていますよね。ニュースを見ると、ウクライナの人たちがかわいそうなのに、なぜロシアの人たちは、ウクライナにこうげきするのだろうと疑問に思いました。戦争するなら話合えばいいのに・・・

ロシア軍がウクライナ軍をこうげきする理由について調べてみると、ネットにはこう書いてありました。「ロシアと仲が良くないグループに、ウクライナが入ろうとしているのをじやまするために、ウクライナの土地をせめて、うばっ

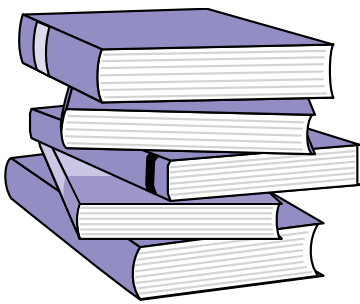
ている。」と。私はこれを見たときに、これだけの理由で関係のない人たちの命をうばっているということにとってもおどろき、悲しい気持ちになりました。だから話合いが大切だと考えました。

この戦争のおかげで、私たちの生活への影響がたくさんあります。まず、ガソリンです。お母さんとガソリンスタンドに行ったとき、「またガソリンが高くなってる。」と言って、お母さんがなげいていました。家に帰ると、ちょうどニュースが「ロシアとウクライナの戦争の影響で、石油や天然ガスがたくさんとれるロシアからのエネルギー資源が手に入らなくなれば、世界的に石油や天然ガス、ガソリンの値段が上がります。また、石油を使うせい品やモノの値段や電気代が上がるかもしれない。」とやっていました。さっきお母さんが言っていたこともこの戦争のせいなんだと思いました。また、ウクライナは米、麦、豆などをたくさん作っている国です。エネルギー資源だけでなく、食糧資源も値上がりしていくはずで

このように、私たちの生活にたくさん影響が出るのです。

ロシアとウクライナの人たちにぜひ話し合いをしてほしいです。そして一日も早く戦争を終わりにしてほしいです。

今、私たちは、話し合うことの大切さを、学校で学んでいます。特に、今年は、たくさん話し合いをしよう、という学校全体のめあてがあります。どの学級にも「議題ポスト」というものがあります。議題ポストとは、みんなで話し合いたいことや、困っていること等を紙に書いて入れるポストです。スムーズに話し合うために、計画委員会というものがあります。議題ポストに入っているものを見て、次に話し合う内容を決めます。そして、話し合い方を考えて学級会の準備をします。学級会では司会グループとして会を進めます。最初の頃は、もめることもあり、なかなか話し合いが進みませんでした。今は、スムーズに話し合いをしています。私は、話し合いが必要なことは、たくさんさんの意見を出すことと、ゆずり合う気持ちだと思います。話し合いをすると、黒板いっぱい意見が出ます。たくさんさんの意見が出ると、話がまとまらなくなってしまうこともあります。そんな時に、「ゆずり合い」の気持ちをはつきされます。少



しても納得できる意見があれば、そこからみんなで納得できる方法を考えていきます。時にはがまんをして「ゆずって」くれる人がいます。そのおかげで、話し合いがスムーズにいつて決まらなかったことが決まっています。話し合いがうまくいくと、すぐススキリします。話し合っているときには対立している友達も、決まった後は、元通りの仲良しになります。この「ゆずり合い」こそが、話し合いには大切なのだと思います。

このように、私たちは話し合いの仕方や、話し合いの大切さを学んでいます。対立する意見があるとき、暴力や武器にたよって解決するのではなく、話し合いで解決できるようにするために学びました。「ゆずり合う気持ち」これを持って話し合うことを私はこれからも続けていきたいと思っています。そして、一日も早く、ロシアとウクライナの戦争も、話し合いで解決できることを願っています。

一番大切な事について



江川小学校 5年
鈴木 さつき

皆 さんにとって、一番大切だと思っている事は何ですか。

私が一番大切だと思っている事は、命です。なぜなら、命はたった一つしかないからです。

自分の命はもちろん、家族や動物、植物の命もたった一つしかありません。だから、与えてもらったたった一つの命を大切にしていかなければいけないと思います。

そこで私は、命を守ることにについて考えてみました。

三年前から、新型コロナウイルスが流行し始めました。感染した多くの人が亡くなり、悲しいニュースを毎日毎日目にし、耳にするようになりました。そして、有名芸能人が亡くなるニュースに衝撃を受け、体がぶるぶるふるえるほど怖くて仕方がなくなりました。

新型コロナウイルスの流行は、私たちの学校生活にも影響を与えました。

楽しみにしていた学校行事が次々と延期になったり、無くなったりして、マスクをする生活が始まりました。「マスクを外して友達と話したい。」「顔を見ながら楽しく話して、大きな声で思いっきり笑いたい。」「音楽の時間に、リコーダーやけんばんハーモニカの練習をして、上手に演奏できるようにになりたい。」「何度そう思ったかわかりません。」

でも、命を守るためには仕方がない事だとも思いました。

新型コロナウイルスは、感染していない人の生活にも多くの影響を与え、そのせいで、大切なたった一つの命を自分で失ってしまう人もかなり増えていくと聞きました。

私は、命の大切さを伝えたいと強く思いました。そして、命を守ることは、自分だけではなく、家族の命を守ることもつながると考えました。

例えば、新型コロナウイルスを防ぐために、手洗いうがいをする事で自分の命を守る事ができ、周りの人や家族も守る事が出来ます。

また、ワクチン接種をすることで、症状が軽くなるので、もしかかった時に命が助かる可能性が高くなります。自分と家族の命を守る事にもつながるので、私はワクチン接種をしました。

命は家族の愛情と願いがたくさん



詰まっているので、とても大事にしなければなりません。私は家族が悲しむ顔を見たくはないのです。だから、毎日手洗いうがい、消毒をするように心がけて頑張っています。皆さんも家族の悲しむ顔は見たくないと思います。だから、皆さんにも感染したりしないように手洗い、うがい、消毒することを心掛けてほしいと思います。

最近、コロナウイルスに感染する人が少しずつ減ってきています。でも、今までのように、減ったり増えたりをくり返すかもしれないので、油断してはいけないと思います。いつまで続くかわからないコロナウイルスは怖いですが、大切なたった一つの命をしっかり守っていききたいと思います。

家族、友達、地域が一つになり、力を合わせて大切な命を守っていきましょう。

みんなが 健康な未来へ



榎原小学校 5年
渡部 未優

みなさん、「SDGs」という言葉を知っていますか。

私は「SDGs」について、テレビの特集を見たり、歌を聴いたりして、少し知っているくらいでした。

そんな時、国語の授業、「調べたことを正確に報告しよう」の学習で「SDGs」について調べることになりました。まず、「SDGs」とは、「全ての人が良い環境で生活し続けられるようにするための道しるべ」です。さらに、「世界の持続可能な開発のために、二〇一六年から二〇三〇年の十五年間で十七の目標を達成する」と決めたそうです。

私は、十七の目標の中から、三の「すべての人に健康と福祉を」について詳しく調べることになりました。二〇二〇年、私たちの生活が大きく変わってしまいました。世界的パンデミックを引き起こした、新型コロナウイルスの感染拡大です。健康な

生活を送ることができなくなってしまう人や、亡くなってしまう人もいました。だからこそ、目標の三である「すべての人に健康と福祉を」という目標に関心をもちました。こういう時には、どのような活動をしていくべきなのか、どんなことを考えていくべきなのか、と疑問がわきました。

私は今回、二つの資料を活用し、この目標について調べていきました。まず、「EduTown」というインターネットの資料を使って調べました。目標三のポイントは、「子どもから大人までみんなが健康でいられる」「安心して暮らせる福祉サービスが受けられる」の二つです。また、日本発で世界に注目されているものに「母子健康手帳」があります。お母さんが妊娠すると渡される手帳で、妊娠中や生まれてからの成長、予防接種などを記録します。子どもの健康や発達・成長に関する情報も読むことができ、お母さんと子どもの健康を守るのにとっても役立つ手帳です。私は、お母さんに母子手帳を見せてもらいました。生まれる前のお腹の様子から生まれた後の様子まで、細かく書かれていました。この一冊で私のことがよく分かりました。次に、「ふくしまみんなのSDGs」という冊子を使って調べました。福

島県では、二〇三〇年までに、若い世代から高齢者まで、県民一人ひとりが心身ともに健康な生活を送っていることを目標にかかげています。また、福島県立医科大学では、高度な医療機器・技術を用いた診療の提供や、高齢化の上昇に対応するために、地域医療への持続可能な取り組みをしていくそうです。私の住んでいる下郷町では、廃校の戸赤分校を拠点にし、企画を通じて地域の魅力を発信し、高齢化や過疎化が深刻な町内への定住者増加、地域活性化につながる取り組みをしています。

今回、「SDGs」三の目標「すべての人に健康と福祉を」を調べてみて、世界では、多くの人々が今も大変な思いをしながら生活していることが分かりました。

普段、自分が健康でいるためにやっていることに、どんなことがあるか考えてみました。手洗い・うがい、自分が病気になるのを予防するだけでなく、他の人にうつすのを防ぐことにもなります。インフルエンザのワクチンと同じで、自分が感染しないことで、流行をおさえることになる気がします。

また、他にできることとして、学校で取り組んでいるペットボトルキャップ集めに協力していきます。ペットボトルキャップ八〇〇個でワ

クチン一人分につながるからです。

そして、私はこれからも学び続けていきます。「SDGs」という言葉を知っているだけでなく、その意味を知り、行動することが大切であると学びました。この学習を通して私は、自分はとても幸せなんだと気がされました。今後も、いろいろな情報や言葉を知り、自分で考えながら行動していきます。

ぼくたちに、

できること



旭田小学校 6年
佐藤 諒汰朗

突

然ですが、みなさんはゴミ問題について考えたことがありますか。

ぼくはゴミ問題は放っておけない問題だと思います。ぼくがゴミ問題について考えるようになったきっかけは、授業でSDGsについて学習したときです。その時、海洋にゴミが大量に放出されているということを知り、衝撃を受けました。

調べてみると、現在、世界では一年間で二十一億トンもゴミ

が放出されています。日本では、四千二百七十二万トンという大量のゴミが捨てられていることが分かりました。さらに、この中でリサイクルされているゴミの割合は、十五パーセントととても低くなっています。

このゴミ問題から大きく二つの問題が発生しています。一つ目は埋め立て地の不足です。ゴミは最終的には、山や海に埋め立てをします。しかし、環境保護などの理由で埋め立て地には限りがあります。今のままでいくと、二十年后には埋め立て地がなくなってしまうという調査もあります。つまり、ぼくが三十歳になる頃には、この下郷町にもゴミがあふれかえっているかもしれないということです。

二つ目は地球温暖化です。ゴミが増えれば大量の化石燃料を使うことになり、大量の二酸化炭素が発生します。それは、地球温暖化につながってしまいます。最近では、温暖化により異常気象が増えて災害が起こりやすくなっています。福島県でも大雨などで大きな被害が出ています。また、魚の獲れる種類が変わったり、魚が獲れなくなったりしています。昨年は福島県沖でもサンマがあまり獲れずに、値段が高くなり、サンマをあまり食べることができませんで

した。

このような問題の解決に向けて、日本では様々な法律や規制を定めています。しかし、それだけで解決できるでしょうか。ぼくは、国がいくら対策をしても、ぼくたち一人一人がゴミを減らすために何ができるかを考えなければ、ゴミ問題を解決することはできないと思います。こんなにたくさん出るゴミを減らすには、一人一人の協力がなければ、解決できないでしょう。ぼくは自分たちにもできることがたくさんあると思います。例えば、3Rと呼ばれる「リデュース」「リユース」「リサイクル」を心がけることです。「リデュース」では、必要なものだけを買って、余計なものを買わないようにすることです。ぼくは以前ほしくて買ってもらったおもちゃなのに、全然遊ばずに捨ててしまうということがありました。だから、必要なものだけを買うようにしていきたいです。「リユース」では、小さくなった服を他人にゆずったり、リサイクルショップで買い物をしたりすることもでき

ると思います。「リサイクル」では、家庭で出たゴミをしつかりと分別することが大切です。下郷町では当たり前のようにプラスチックゴミを分別していますが、地域によつては、プラスチックゴミを分別していない

ところもあるそうです。限りある資源を有効に使うためには、分別は絶対に必要だと思います。これらに気をつけていけば、今までゴミとして捨てられていたものが、他の製品に生まれ変わるなど、ゴミを大幅に減らすことができます。

さらに、みんながエコバックを持っていき、レジ袋を使わないことも大切だと思います。一枚十グラムのレジ袋を一人一日一回使うとします。日本の人口が一億二千万人だとすると、一日に千二百トンにもなります。さらに一年間では、約四十四万トンにもなります。レジ袋をもらわなければ、これだけのゴミを減らすことができるのです。このような取り組みを、日本だけでなく世界中で取り組んだら、どれだけのゴミが減らせるでしょうか。

このように考えると、自分一人ですることができることは小さいけれど、「ちりも積もれば山となる」と言われるように、世界中の人たちが協力し合えば、とっても大きなことができるのではないのでしょうか。現在のようにゴミを捨て続けられ、より大きな問題となつて、ぼくたち人間に返ってきます。人間や動植物にとつてよりよい世界にするために、ぼく、そしてここに

えて、それを実際にやってみることが、ゴミ問題を解決するために最も大切なことだと思えます。みなさんも自分にできることを考えることから始めてみませんか。

下郷町に生まれて



江川小学校 6年
五十嵐 美空

み

なさんは、「グリーンハウス」という名前を聞いたことがありますが。これは、私たちの給食を作っている会社の名前です。私たちは、修学旅行で、東京にある「グリーンハウス」の本社を訪れてきました。なぜ、私たちがこの会社を訪問することになったのかというと、この会社の創業者が田沼文蔵という大内宿出身の方だったからです。三年生の時に、田沼文蔵さんがどんな人なのか、どんなことをしたのかを調べたことがありました。しかし、その時に知ったことは比べものにならないほど、今回の会社訪問でたくさん知ることができました。そ

して、あらためて、下郷町に生まれて育っている自分のことを考えるきっかけになりました。

田沼文蔵さんは、つらい戦争を経験しました。その経験から、「社会に役立つ仕事をしたい。」という熱い思いが生まれました。その熱い思いを持ち続け、慶應義塾大学予科の学生寮で学生の食事の面倒を見る仕事をひきうけました。必死で食料を調達し、お金のない学生には無償で食事を提供したこともあったそうです。そして、「人に喜ばれる仕事があった」「食を通して人を幸せにしたい。」という思いが、グリーンハウスの原点となっています。

私はイライラしたり、集中できなかったりするときに、おいしいものを食べると落ち着くことがあります。だから、「食を通して人を幸せにしたい。」という考えを聞いて、とてもすてきな考えだなと思いました。食べることに嫌いな人は食べることが好きになれるように。食べることが好きな人にはもつといっぱい食べてもらって幸せになれる。誰もが幸せになれる考えだと思いました。そんな考えで仕事を選ぶことができるんだな、と思いました。

東京で過ごした二日間を振り返り、下郷町との違いを感じたり、改めて下郷町のことを考えたりしました。

そして、将来の仕事についても考えるきっかけになりました。

私が将来、下郷町で仕事をするなら、下郷町に住む人が増えるような企画をしたいと思いました。観光で町に来てくれる人はいっぱいいるので、それを生かして、人口を増やせたらいいと思います。大内宿や塔のへつりなどの観光地を使い、観光だけでなく、ここに住みたいと思ってもらえるような企画を考えたいです。また、グリーンハウスのように「食を通して人を幸せに」の心で人々に幸せを届けられるような仕事を下郷町でしてみるのも楽しそうだなと思いました。

下郷町に住みながら都会の仕事をするのも楽しそうです。最近、増えてきているリモートを使って下郷町でできる仕事もあるのではないかと考えました。

こんなふうに、「仕事をする」ということを考えたとき、「都会だったらどうか」「下郷町だったらどうか」と二つを比べました。

都会で仕事をするこのよさはなんでしょう。仕事の種類がいろいろあることでしょうか。今、どんな仕事をしていいかわからなくても、都会に行けばたくさん選択肢があるでしょう。

では、下郷町ではどうでしょうか。

こんな未来に

なったらいいな



榎原小学校 6年
芳賀 穂高

下郷町には都会と比べると多くの仕事はないかもしれませんが。しかし、下郷町で仕事をすれば、知り合いがたくさんいるので、職場で楽しく仕事ができるのではないのでしょうか。

私は、下郷町がもつと活気のある町になつたらいいと思っています。どこで、どんな仕事をする事になるか、今はまだわかりません。でも、下郷町で生まれ育つたことを心の中に残しながら、いつか町に恩返しができるような仕事をしたいと思っています。

み

なさんは、道ばたや空き地などにごみが落ちていたのを見たことはありませんか？ぼくは今まで、そんな光景に特に何も感じませんでした。

ぼくは、今年の修学旅行でコミュニケーション福島に行きました。コミュニケーション福島では、東日本大震災や放射線について学ぶことができました。その

中で、ぼくが興味を持ったのが再生可能エネルギーについての展示です。説明を聞いて、ぼくは自分の好きな海の生き物が、みんながふだんやっているごみのポイ捨てで命を落としていることを知ってびっくりしました。

どうして、町の中のごみと海の生き物とで関係があるのでしょうか。

まず、町の中のごみが風に飛ばされます。そして、川などから海へと流されていきます。それが海岸にたどり着くのです。だから全国各地の海岸には、ごみがたまりますのです。

そして、マイクロプラスチックなどの小さいごみが海に入り、汚染し、海の生物たちがその小さいごみを食べ、体にたまり死んでしまいます。それだけではなく、その魚などを食べる生物も死んでしまうのです。生物や鳥の命をうばうだけではなく、海が汚れるとプランクトンが増えて海が赤くなる赤潮が発生します。そうすると海の中が酸素不足になり、魚や貝が住めず、取れなくなってしまう。海の魚が少なくなると、水産業や観光業にも影響が出てしまいます。これらはSDGsの課題の一つにもなっています。

これからもごみが増え続けると、これらの問題だけでなく、船への障害となったり、沿岸地域の環境が悪化したりします。これは、はつきりと

分かっている問題の一部分だけです。地球の表面積の七割を占める海の汚染がおよぼす影響は、未知数の部分も多いそうです。もっと深刻な事態になつてしまうかもしれません。

では、どうすればいいのでしょうか。

それは、ゴミを減らすことです。ごみを減らすには、リユース・リサイクル・リデュースの3Rをすることです。ぼくが調べたり考えたりした中から、ぼくたちにできる七つのことを提案します。

一つ目は、買い物のときに、マイバックを持参することです。そうすることで、レジ袋を減らし、プラスチックを減らすことができるのです。町に落ちているごみにも多くのプラスチックのレジ袋がふくまれています。

二つ目は、マイボトルや水筒などを持ち歩くことです。プラスチックのペットボトルやカップを減らし、ゴミを少なくします。

三つ目は、マイ箸を持ち歩きすることです。わりばしや、プラスチックのスプーンやフォークを減らすことができます。

四つ目は、プラスチック製のストローをなるべく使わないことです。これらの働きかけで、ごみ袋やペットボトル、わりばしなどのごみを減らすことができます。

五つ目は、町や県で行っているご

み拾いのボランティアに参加することです。たくさんの方が来て、みんなで協力してたくさんのごみを拾ってくれば、町もきれいになります。また、町や自然をよごさないようにしようという気持ちも出てくると思うので大事だと思います。

六つ目は、食べ残しをしないことです。食べ残しをすると、生ごみになります。それだけでなく、世の中に十分に食べることができず、おなかをすかせている子供たちがいることも忘れてはいけません。

七つ目は、鉛筆や消しゴムなどなるべく最後まで使い切ることです。物を大切にして最後まで使い切ると、その分ごみは出ないからです。

この七つを頑張れば、海のごみを減らし、自然や生き物にも優しい社会にすることができるのではないのでしょうか。

ぼくは、海のごみや町のごみ、地球のごみがゼロになったらいいなと思います。そんな自然にも環境にも優しい社会になったらいいなと思います。皆さん、海の平和、そして下郷町や地球の未来に向けて頑張ってくださいましょう。

青少年の主張発表 優秀賞 中学生の部 あたたかい世界へ



下郷中学校 1年
渡部 結愛

皆 さんは、他人をいじめたこと、またはいじめられたことはありますか？いじめというのは、立派な犯罪行為です。

実は、私は過去にいじめのようなものを受けたことがあります。それまでいじめは自分に関係ない、周りにそんなことをする人なんていない、と思っていたのですが、残念ながら起こってしまいました。その時の悲しみや苦しみは今でもよく覚えています。今回は、そんな自分たちの身近に潜む「いじめ」について考えていきたいと思います。

いじめは「いじめる側」と「いじめられる側」の人がいます。私は、「いじめる側」の人は、相手を傷つけてしまっているという自覚がありません。これは、はつきりと

じます。「この人はこの言葉を言っても大丈夫」「この人なら何を言ってもいいや」そんな気持ちがあるのかもしれない。

それに対して「いじめられる側」の人はどうでしょうか。いじめられる人は基本的に我慢してしまうと思います。でも心の中では「嫌だ」「つらい」「逃げ出したい」と思っているはず。その取りつくろった笑顔の裏には、きつと悲痛な思いを抱えていると思います。

いじめは、周りの環境も非常に重要だと思います。「いじめを面白がる人」がいれば、いじめの行為はどんどんひどいものになるでしょう。面白がらずとも「いじめをただ見ている人」もいると思います。「自分には関係ないから」という気持ちもわからなくもありません。ですが、本当にそれでいいのでしょうか。少しでも勇気を出して、「その行為はいけない」という雰囲気を出すことはできるのではないのでしょうか。

私なりに、いじめの解決法を考えてみました。私が最初に考えた解決法は「少しでも心がモヤッとしたり、ムカムカしたりした時は、周りの人に相談する」ということです。学校は様々な人が集まる場です。勉強や部活動、行事を行う

ときに、たくさんすれ違ったり、悩みが生まれたりすると思います。そういった悩みを抱えやすい時期と環境だからこそ、その不安やストレスを親、先生、友達など、身近な人に相談して心の「もやもや」を取り除く。それが一つの方法だと思いました。もう一つは「適度な息抜き」をすること。たまには思いっきり自分の好きなことをしてストレスを発散しましょう。そうすれば自然とストレスや不安は抜けていくはずです。

そして、私が最も大切だと思うことは、思いやりのある言動を心がけ、相手の立場に立って物事を考えるということです。友達と話すとき、一歩踏みとどまって考えましょう。この言葉を言ったら、相手はどう感じるのか。嫌な思いにさせたりはしないか。一人ひとりが考えることができれば、いじめはきつと減っていくと思います。最後に、いじめの重大さとお願いを聞いてほしいと思います。いじめが原因でなくなっている人は一年間で何人いるか知っていますか。その数およそ年間約三百人超え、不登校の人数でも五万人を超えています。このように、いじめはその被害者の人の人生を滅茶苦茶にしてしまうこともあるのです。です

から、皆さんいじめは絶対にしないでください。もし辛い事があつたら周りの人たちに相談してみましよう。そして、思いっきり楽しいことをしてください。そして、思いやりを持った言動を心がけましよう。お互いが楽しく過ごすことで、いじめは自然と無くなっていくと思います。お互いを思い合える「あたたかい世界」にしていきたいましよう。

人種差別について

考えよう



下郷中学校 2年
白澤 梨夢

皆さんは、人種差別と聞いて初めに何を思い浮かべますか。

人種差別とは、人種的偏見によつてある固定の人種を差別することです。言語や肌の色、能力によつて相手を差別し、暴動へと発展し内戦や紛争、大戦が起きます。人種差別は世界の歴史において根深い問題として長きに渡り存在しているそうです。

私はある日、いつものようにニュースをみていました。すると「黒人男性が白人の警察官に首を押さえつけられ死亡した」というような人男性が射殺された」というようなニュースが流れてくるのを目にしました。私はそのニュースを見て、大きなショックを受けました。なぜ同じ人間なのにそんなことをしてしまうのでしょうか。他に方法はなかったのでしょうか。行き場のない悲しみと不安に襲われました。

また、他にも人種差別の問題を肌で感じた体験があります。私は海外映画が好きで、趣味でよく観ます。その日もちょうど海外の映画を観ていました。映画の中で、ある黒人の俳優さんが出てきました。私は「カッコいいな」「たくましいな」とその黒人男性を魅力的に感じたのですが、周りの人は「黒人ってやっぱり怖いよね、嫌だな」と、黒人だからという理由で悪く言う人がいました。実際その人が怖いかどうかなんて見た目だけではわからないのに、そういった偏見をもつ人がいて、私は少しムキになってしまいました。人によつては黒人に対する不快感や偏見をもつ人はいるかもしれませんが、それをわざわざ言葉に出したり、態度に出したりするのはおかしいと、

私はそのとき強く思いました。

では、なぜそんな偏見が生まれるのでしょうか。相手のことをよく知れば「怖い、嫌だ」なんて思わないはずなのに。私が一番大切だと思うことは、固定観念にとらわれず相手をよく理解することが大事だと思っています。相手を理解しないからこそ偏見が生まれ人種差別につながると思います。

世界には他にも様々な人種差別があります。最近ではコロナウイルスで、中国人が「中国人は国から出ていけ」などの発言をされ、暴力を振るわれるという深刻な問題が起こっているそうです。

差別や偏見は世界だけの問題ではなく、私たちの身近なところにも存在しています。「この人は静かだからリーダーにはなれないよね」「あの人は太っているから運動はできなさそうじゃない？」などといった、偏見で染まった言葉をよく耳にします。こういったささいな偏見や差別をまとった考え方が、大きな大きな社会問題にもつながっているのではないのでしょうか。

皆さんはここまでの話を聞いてどう感じるでしょうか。もつと一人ひとりが広い心をもてば、世界は優しくなると思います。世界には様々

な人がいます。肌の色、髪の毛の色、体の大きい人小さい人、それぞれ一人ひとりみんな違います。違うからこそ、その人の個性があり魅力があります。お互いを尊重し合いましょう。人種差別についてよく考えてみてください。

ジェンダーレスの 理解を高める



下郷中学校 3年
酒井 葉月希

「ジェンダーレス」という言葉をみなさんは知っていますか。聞いたことはあるけど、どういう意味かは知らないという人が多いと思います。現在、世界各地でジェンダーレスについての話題が広まり、たくさんの議論がなされています。

ジェンダーレスとは、男女の文学的、社会的な差をなくそうという考え方を指します。

性同一性障害者や同性愛者、性別によって役割を固定化されている人が世界には多く存在します。そんな

な人たちを救おうという考えがジェンダーレスなのです。現在、日本ではSDGsの目標の一つに、「ジェンダー平等を実現しよう」というスローガンが掲げられています。

ところで、みなさんは最近、制服をズボンかスカートか自分で決められる学校が増えてきていることを知っていますか。スカートではなくズボンを履きたい人、反対にズボンではなくスカートを履きたい人が増えてきたため、自分で選べるようになったのです。今、私が通う下郷中学校は、ジャージの色も男女で違います。しかし、このジャージの色も、男女で統一するように動いているそうです。このように、ジェンダー平等を実現しようとする取り組みが徐々に広まっています。

二〇一八年に行われた各国における男女格差が小さい国のランキングでは、日本は百十位でした。このランキングの結果から日本はまだまだ男女格差があることが分かります。また、このランキングでは驚くような結果が出ました。それは、EUの国々が上位にランキングしているということです。私はEUに対して、男女格差が小さいというイメージを持っていたので、結果を見たときとて

も驚きました。驚いたと同時に、EUではどんなことをしているのだろうという疑問が浮かびました。そこでEUがしていることを調べてみると、「五か年計画」という取り組みをしていることが分かりました。五か年計画とは、五年かけて、女性の雇用率を上げ、男女格差をなくす取り組みをしていくことだそうです。この取り組みによつて、EUは男女格差が少ない先進国となりました。

しかし、EUのようにジェンダーレスをなくそうという取り組みを行っている国は世界中でごくわずかです。私はこの問題を解決するには、次の二つのことをしなければならぬと思います。

一つ目は、「ジェンダーレス」の考えを広め、一人ひとりが理解しようと努力することです。まだ「ジェンダーレス」を知らない人が世界中にたくさんいるというのが現状です。そんな人たちにジェンダーレスの考えを広め、ジェンダーレスを知らなかった人たちが理解しようと努力することが大切なのではないでしょうか。私自身も、偏った考えや見方をしないように、広い視野で物事を考えたいと思います。

二つ目は、差別をせず、個人を



※掲載された作文は内容原文です。

尊重することです。性別によって役割を固定化するなど世界中で差別が行われています。このような差別をなくし、個人を尊重することも大切なことです。きれいなだけでなく、一人ひとりの個性を認める考え方ができるような社会になつてほしいと思います。私も、身近な友達の性格や考え方を認め、受け入れ、尊重していく姿勢を忘れずに生活していきます。

性別などによる差別で苦しんでいる人たちがいる。このような人たちを少しでも減らすためには、ジェンダーレスの理解を高めること、個人を尊重すること、この二つが大切だと思います。

みなさんの周りに悩んでいる人はいませんか。もし悩んでいる人がいたら、相談に乗ってあげましょう。一人ひとりのそのような行動によって、苦しむ人たちが減っていくはずですよ。

青少年健全育成作品コンクール入賞者

◆標語 (小学生の部・5年生)

賞	氏名	内容	学校
最優秀賞 1点	いがらし 五十嵐 ありと 歩音	使うなら 情報モラル 考えよう	江川
優秀賞 2点	さとう 佐藤 はん 絆 奈	ありがとう 未来も共に 地いきの人と	旭田
	おぐら 小 椋 めい 夢 生	家の中 会話とびかう 子の笑顔	檜原
佳作 4点	きのの 佐野 かげる 翔 琉	学校にひびく 明るく元気な 良きあいさつ	旭田
	もとじま 本島 だい 大地	あいさつは みんなの心 たすけ合い	江川
	わたなべ 渡部 あゆみ 明優花	愛ことば 地域とかわす あいさつで	檜原
	わたなべ 渡部 みゆ 未 優	自分らしく 生きることが 明るい未来をきりひらく	檜原

◆ポスター (小学生の部・6年生)

賞	氏名	内容	学校
最優秀賞 1点	むろい 室井 みか 美 奏	きずつく言葉に気をつけよう	旭田
優秀賞 2点	つゆ 露崎 ゆう 悠 苒	危ないよ 歩きスマホ 身の危険	旭田
	たま 玉川 きら 煌 梨	傷ついた心に 優しい言葉のばんそうこう	江川
佳作 4点	きとう 佐藤 りょうたろう 諒汰朗	あいさつは 心と心をつなぐ言葉	旭田
	ゆだ 湯田 ひめ 姫 華	見てあげよう 心の中のSOS	江川
	はが 芳賀 ほ 穂 高	ポイ捨て禁止	檜原
	わたなべ 渡部 じゅん 純 平	町をきれいに	檜原

◆標語 (中学生の部)

賞	氏名	内容	学年
最優秀賞 1点	ほし 星 かな 奏 人	金メダル なくても目指す ゴミ拾い	3
優秀賞 2点	さとう 佐藤 あや 彩 音	めざそう! ちがいを認め合える 幸せな世界を	2
	おやま 小山 みく 美 来	暖かい春 その一言で心が変わる 厳しい冬に	1
佳作 3点	さいとう 斎藤 ゆう 優 奈	書き込みは 二度と消せない デジタルタトゥー	3
	わたなべ 渡部 やまと 大 和	SNS 小さな一言 大きな被害	3
	あべ 阿部 りょうや 凌 也	その言葉 言っていること? きずつくよ	1

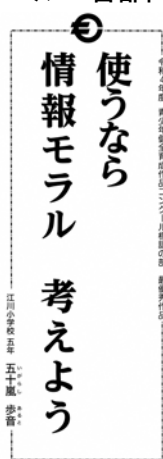
◆ポスター (中学生の部)

賞	氏名	内容	学年
最優秀賞 1点	まつや 松矢 なつき 夏月 葵	心あたたまるとあいさつを	3
優秀賞 2点	あべ 阿部 まこと 真香珠	いのちをたべる	3
	さとう 佐藤 あや 彩 音	あいさつでみんなを笑顔に	2
佳作 3点	わたなべ 渡部 こう 皓 大	あいさつ	3
	あべ 阿部 こゆき 心優姫	その一言で笑顔になれる	2
	ゆみ 弓田 ゆう 優 来	あいさつの繋がりが	2

◆青少年健全育成作品コンクール 各部門 最優秀作品



標語中学生の部 最優秀賞
下郷中 星 奏人



標語小学生の部 最優秀賞
江川小 五十嵐 歩音



ポスター中学生の部 最優秀賞
下郷中 松矢 夏月葵



ポスター小学生の部 最優秀賞
旭田小 室井 美奈

2 親子読書月間

令和3年3月に策定された「第2次下郷町子ども読書活動推進計画」で、12月を「親子読書月間」と定められています。

寒くなり、家にもってしまいがちですが、その時間を有効活用し家読（うちどく）で家族と一緒に過しましょう。

家読（うちどく）とは

「家庭読書」の略称で、子どもたちの取り巻く環境が変化し、家族との会話が少なくなった現代社会の問題が挙げられたため、提唱されました。家庭で読書を行うことにより、家族のコミュニケーションを図ることで「家族の絆」を深める活動です。

家読のすすめ

- ◎ 家族で同じ本を読んでもみよう。
- ◎ 本を読む時間を決めて、みんなで集まりそれぞれ本を読んでもみよう。
- ◎ 読んだ本の感想を話したり、紹介したりしてみよう。
- ◎ 自分のおすすめの本を説明してみよう。
- ◎ 家族に本を読んであげてみよう。

1 冬季休業について

町内各小中学校の児童・生徒が、冬季休業に入ります。

**期間／令和4年12月24日（土）～
令和5年1月9日（月）**

子どもたちが、安全で安心に過ごせるよう、ご協力をお願いいたします。

～有意義な冬休みにするために～

規則正しい生活を送りましょう

- ◎ 学校がある日よりも起床時間が遅くなりすぎないようにしましょう。
- ◎ ゲームのやりすぎ、テレビの見すぎで夜更かしをしないようにしましょう。
- ◎ 家に帰ったら、手洗いやうがい・手指消毒を行いましょう。
- ◎ 雪遊びをするときは、屋根の下や側溝、道路への飛び出しに注意しましょう。
- ◎ 日が暮れるのが早いので、午後4時頃には家に帰りましょう。
- ◎ 子どもだけで家の外に出るときは、「誰と、どこで、何をするか、何時ごろ帰宅するか」を家族に伝えましょう。

思い出に残る楽しい
体験をしましょう

- ◎ 家族や友達等と過ごす時間を大切にしましょう。
- ◎ 自分にできる家でのお手伝いを決め、積極的に取り組みましょう。